



又エック ニュース

平成12年2月25日

National Women's Education Centre News 第88号



「宿泊棟・本館から研修棟に向かう利用者」



「朝市」



「福寿草」

会館ボランティアによる文化活動の作品（切り絵）

もくじ

平成11年度 国立婦人教育会館総合テーマ
「エンパワメントは21世紀への合言葉
- 新たな共生をめざして -」

パトリシア・クラントン氏に聞く..... 2

事業の実施報告

・NWEC国際フォーラム..... 3

・公開講演会..... 3

・男女共同参画学習フェスティバル..... 4

・男女共同参画学習推進フォーラム..... 4 ~ 5

事業予告・募集

・全国ボランティア情報提供・相談窓口事業の開始について 5

・女性学・ジェンダー研究国際フォーラム..... 5

情報ネットワーク..... 6

調査研究資料の作成..... 6

ことばの基礎知識..... 6

ボランティアコーナー..... 6

嵐山往来

・マーシャル諸島共和国外務次官ご視察..... 7

・大学婦人協会全国セミナー・アジア大学婦人連盟総会..... 7

・婦人国際平和自由連盟ワークショップ..... 7

がいらんぱん..... 8

パトリシア・クラントン氏に聞く

平成11年度 国立婦人教育会館総合テーマ「エンパワーメントは21世紀への合言葉 新たな共生をめざして」について



1. 国際フォーラムでは招聘専門家としてご協力いただきまして、ありがとうございました。国際フォーラムの印象はいかがでしたか？

素晴らしい意見交歓の場でした。参加者が非常に熱心に討議に加わり、白熱した討議が行われ、感心しました。特に、私が担当した「教育・学習」の分科会においては、男女共同参画社会の形成に向けて、女性のエンパワーメントにおいて何が課題となっているか、各国ではどのような努力がなされているか等について、活発な意見が交換されました。また、夕食後には、小グループが自然に発生して、意見交換が盛んに行われていたことも、非常に良いと思いました。

2. 会館の印象はいかがですか？

国立婦人教育会館は、22年間にわたり、婦人教育、家庭教育、女性学、女性情報等に関する研修・交流・情報・調査研究の4つの事業を推進し、日本の女性の教育・学習の充実のために多大な貢献を行っているとして理解しております。特に情報事業においては、日本国内及び世界各国の女性センター等とのネットワーク化を図られていることに感銘を受けました。

3. 日本の女性に対しご提言がありますか。

日本の女性に求められることは、集団の中で自己を確立することだと思います。そのためには、自分の意見を積極的に表現しようとする姿勢が必要と思われます。また、自己の確立には、親からの心理的な独立が必要です。親、特に母親からの分離がうまくできないと、母親の価値観を取り込み続けることになるので、自分の価値観がわからなくなって自己のエンパワーメントを阻害するおそれがあると考えられます。

日本では夫が仕事で忙しいため、夫と妻の間に会話が少ないと聞いています。家庭での母子の密着度が高まり、次の世代では母子分離がより難しくなるのではないのでしょうか。これからは母子癒着の解消が必要だと思います。

プロフィール

現 職	米国パーソナル・アンド・プロフェッショナル・エンパワーメント研究所所長
専攻分野	高等教育ならびに成人教育における教授（ティーチング）と学習（ラーニング）
受 賞	オンタリオ州優秀学者賞、オンタリオ州大学教職員協会連合教育賞、等
主な著書	「おとなの学びを拓く」（1992年、1999年日本語訳） 「トランスフォーマティブ・ラーニングの理解と推進」（1994年、1995年中国語訳）等多数

事業の実施報告

NWEC 国際フォーラム

11月25日から27日までの3日間、国際フォーラムを開催しました。本フォーラムは、国際連合が2000年6月に「女性2000年会議：21世紀に向けての男女平等・開発・平和」を開催することをふまえて、男女共同参画社会の形成のために重要な課題を国際的な視野から討議し、女性のエンパワーメントの推進に資するとともに、国内外のネットワークの形成を図ることを目的としたものです。



活気にあふれたシンポジウム

2000年女性会議に向けての課題と改善への方向性を明らかにしました。分科会においては、「政治・政策決定への参画」「職業」「教育・学習」の3つの分野において、男女共同参画社会の形成のために重要な課題を国際的な視野から討議しました。

全体会においては、各分科会のコーディネーターが分科会の報告を行った後、女性2000年会議に向けて男女共同参画社会の形成のために重要な課題について、活発な意見交換を行いました。

海外からの招聘専門家としては、アジア開発銀行米国代表など8名、日本人専門家としては、上智大学法学部教授猪口邦子氏、岡山大学法学部教授中村誠氏など9名のパネリスト、コーディネーターにより、500名の参加者を得て、シンポジウム、3つの分科会及び全体会が実施されました。シンポジウム「政治、職業、教育における女性と人権」においては、アジアの経済危機が女性の人権とエンパワーメントの促進への取組みに与えた世界的な影響と、その克服の可能性について意見を交換し、



12名のコーディネーターによる全体会

公開講演会

10月30日(土)午後、約500名の参加者を得て公開講演会を開催しました。

「男女が対等な立場で責任を担う社会の実現をめざして」をテーマに残間里江子氏(プロデューサー)及び佐藤博樹氏(東京大学社会科学研究所教授)の対談により、男女共同参画社会の実現をめざして、今後どのように取り組むかについての意見交換及び参加者との活発な質疑応答が行われました。



対談を行う残間里江子氏と佐藤博樹氏

事業の実施報告

男女共同参画学習フェスティバル 99 in スエツ

10月29日(金)から10月31日(土)までの3日間、男女共同参画社会の形成に向けた学習・交流の充実を目的とする「男女共同参画学習フェスティバル 99 in スエツ」(平成11年度新規事業)を約720名の参加者を得て実施しました。

フェスティバルにおいては、「国立婦人教育会館研究紀要『第3号』入選論文報告会」、婦人教育・家庭教育の課題についてのテーマ別討論、全国から公募した41の自由企画プログラム(女性問題、男性問題、女性の教育/学習、女性政策、女性の労働、高齢者問題、女性への暴力などのワークショップ、和紙すき・絵てがみ・陶芸等の文化活動、ミュージカル、楽器演奏、作品展示等)、地域色を出した踊り・歌等のパフォーマンス等の交歓会、公開講演会等、盛り沢山の内容により充実したフェスティバルとなりました。



合唱を行う韓国女性開発院の皆さん



交歓会のドラネコ座(岡山県)のパフォーマンス

男女共同参画学習推進フォーラム

国立婦人教育会館は、地域における男女共同参画社会の形成をめざした生涯学習の推進と、広域的な施設間のネットワークの形成の充実を図ることを目的とした男女共同参画学習推進フォーラムを全国4地域(秋田県、神奈川県、広島県、福岡県)で実施しました。

財団法人 広島県女性会議

「育児と介護の地域ネットワークづくり」をテーマとして、午前中は「育児と介護と仕事づくり」「男性と育児と介護」「情報と交流の画づくり」の3つの分科会に分かれ、熱のこもった討論が行われました。午後は、清野博子さん(読売新聞大坂本社編集委員)をコメンテーターとするシンポジウムが行われ、育児・介護の社会化や地域を変えるネットワークについて意見交換がなされました。



財団法人 秋田県婦人会館

「新しいパートナーシップの確立をめざす学びの試み」をテーマとして、午前中は、参加者・体験型の学習方法を学び、ジェンダー感度を高め、新しいパートナーシップの確立をめざす事業を意識的に企画・運営することをねらいとして「ビデオ」「グラフ」「ランキング」「カラーージュ」のワークショップが行われました。また、午後は東京大学教授上野千鶴子さんとトーク・トークを開催し、聞き手と参加者が1つになって新しいパートナーシップについて語り合いました。



事業の実施報告

神奈川県立かながわ女性センター

基調講演に沖藤典子さんを迎えてシンポジウム「高齢社会は世代を超えて～男女共同参画・21世紀の船出」が開催されました。これは、12こまる企画の1つで、かながわ女性センター秋のフェスティバル'99と銘打ち、コーディネーターの東洋英和女学院大学教授大澤隆さんを中心に5銘のパネリストが意見を述べました。グループ個人合わせて306名の老若男女が参加し、質問状の提出など熱心に聞き入っていました。



福岡県女性総合センター(あすばる)

男だから、女だから、という理由だけでしたいことができなかったり、特定の仕事や役割が片寄っていた従来の社会慣行や意識を見直していくことを目的にした演劇コンクールを開催しました。身近な女性問題をテーマに、県内の8つのグループがバラエティーに富んだオリジナル劇を発表し、生活のあらゆる場面に存在する「ジェンダー」について観客と楽しみながら考えていきました。



事業予告・募集

全国ボランティア情報提供・相談窓口事業について

会館では、文部省からの委嘱により「全国ボランティア情報提供・相談窓口事業」を2月22日(火)から実施しております。生涯学習の観点から、主としてこれからボランティア活動を始めようとする人々に対し、活動に参加する動機付けを促進し、希望に沿った活動に結びつける機会を提供するものです。どこに問い合わせれば希望するボランティア活動の情報が得られるかについて、ボランティア情報提供機関の紹介を電話、FAX及びインターネットにより行います。なお、インターネットによる情報提供は会館ホームページから24時間公開しています。



(受付時間等) 12月28日～1月4日を除く毎日 午前9時～午後5時
電 話：0493-62-1131
FAX：0493-62-8185
E-mailアドレス：vo1@nwec.go.jp
会館ホームページ：http://www.nwec.go.jp/

女性学・ジェンダー研究国際フォーラム

本年6月には、「女性2000年会議」がニューヨークの国連により開催されます。又エックではその成果を報告する場として、また、21世紀の地球的規模での男女平等・女性の地位向上を目指し、女性のエンパワーメントと女性の人権の確立に資するため、「2000年女性学・ジェンダー研究国際フォーラム」(期日：平成12年8月3日(木)～6日(日)、3泊4日)を開催する予定です。なお、本フォーラムは、従来の「女性学・ジェンダー研究フォーラム」と「NWC国際フォーラム」を併せた形での実施となります。

全国女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会

12月16日（木）17日（金）の2日間、「全国女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会」を開催いたしました。現在インターネット等で全国で情報を発信している施設等の情報担当者の方を対象とし、30名（女性22名、男性8名）の参加がありました。各施設での情報に関する事例報告、情報発信の現状や問題点、著作権、情報の共有化、各施設間の情報ネットワーク構築等に関する熱心な協議や意見交換が行われました。

大学図書館における複数の文献データベースの検索例の紹介とその仕組み、インターネットを用いた情報収集の提案等、専門的な分野を盛り込んだ内容でしたが、参加された方々からの多くの活発な意見を得ることができました。



熱心な協議を行う情報担当者

調査研究資料の作成

研究紀要第3号

「ジェンダーと生涯学習」を特集テーマとして、研究紀要第3号を刊行しました。ジェンダーと生涯学習、家庭教育とジェンダー、学校における男女平等教育に関するテーマ論文3編、ヌエックの調査研究事業の成果、一般から募集した投稿論文のうちの入選作3編、その他女性学・ジェンダー研究等に関する書評4編等の内容が盛り込まれました。



ことばの基礎知識

パートナーシップってなに？

1995年の第4回世界女性会議（北京）以来、ジェンダー、エンパワーメントとともにキーワードとなりました。女性と男性の間の対等な関係づくりに加えて、政府とNGO、行政と市民の間の連携、異世代間の共生、国境や民族を超えた連帯など、さまざまなレベルにおいて協力関係を築き、協働することの重要性を表しています。

ボランティアコーナー

この度、男女共同参画学習フェスティバル'99の自由企画プログラムに、会館ボランティアグループ「なごみ」として参加いたしました。

私たち「なごみ」グループは、個々の会館ボランティアが自主的に集まり、会館で行うボランティア活動（主に会館内の施設見学案内、来館者向けの情報誌作成）ををするにあたり、ボランティア相互で協力しあい研修会等を開いています。

出展した内容は、グループが20年余りにわたる来館者との関わりについて、活動内容をまとめた年表、ヌエックに登録しているボランティアの組織、活動内容等の紹介及び主催事業等により来館する利用者への情報誌として作成している「ようこそヌエックへ」のシリーズ展でした。特に活動内容等の紹介においては、他の参加者でボランティアをしている方と日頃の活動について、情報交換をする機会をもてたことは、今後の活動に大変役立つものと思います。



フェスティバル参加者との情報交換

嵐山往来

マーシャル諸島共和国外務次官ご視察

10月19日(火) マーシャル諸島共和国外務次官マリ・マディソン氏が、ご視察のため会館を訪問されました。同氏は、館長、次長以下幹部職員による会館概要の説明を受けた後、宿泊棟、情報センター、実技研修棟、研修棟、プール等の施設を視察され、特に日本家屋(菅書院)においては利用団体の杉山茶道教室のお茶会に参加し、日本の伝統文化に興味を覚えた様子でした。また、懇談においては、会館とマーシャル諸島との絆が強まることを希望するとの感想を述べられるなど有意義なご視察となりました。



館長の案内で視察する外務次官(中央)

大学婦人協会全国セミナー・アジア大学婦人連盟総会

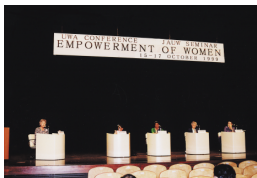


平成11年10月15日～17日、当会館を会場として大学婦人



お茶会終了後の記念撮影

人協会(JAUW)全国セミナー及びアジア大学婦人連盟(UWA)総会が合同で開催され、海外7か国30名を含む206名が参加しました。このセミナーにおいては、有松育子文部省男女共同参画学習課長の来賓挨拶、研究発表では、「女性への暴力-その背景を探る」(茨城支部 寿の調査・研究)の成果の発表があり、基礎講演では、「エンパワーメントのストラテジー」と題して、目黒依子上智大学教授の講演、シンポジウムでは、青木怜子国際大学婦人連盟第1副会長をコーディネーターに「女性の人権-21世紀アジアの課題」について、韓国、ネパール、インド、日本の4か国のパネリストが参加し、活発な討議が行われました。



婦人国際平和自由連盟ワークショップ

平成11年10月18日～22日、当会館を会場として婦人国際平和自由連盟(WILPF)のアジア・太平洋地区の女性たちによるワークショップ「アジア・太平洋地区のグローバリゼーション」が開催され、資本主義経済のグローバル化について、インド、ネパール、スリランカ、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、アメリカ、韓国、フィリピン、中国、インドネシア、日本の12か国のパネリストが先進国、新興工業国、開発途上国に分かれて自国の実状を報告し、これをもとに「社会的タブーへの挑戦と女子教育」、「開発のモデルと外債・構造調整計画」等のテーマについて熱心に討議が行われました。



利用案内

休館日（平成12年3月～平成12年4月）

3月6日（月）・31日（金）

4月3日（月）・17日（月）

休館日でも前日に宿泊した方は、朝食と午前10時までの宿泊棟の利用ができます。

電話やFAXによる申し込みの受付や利用相談も行っています。

【申し込み専用電話番号】TEL:0493-62-6723

FAX:0493-62-6720

ヌエックカレンダー

主な利用団体

10月

- 1～3日 芸百選 華の会
- 8～12日 アラノンジャパン
- 9～11日 埼玉いのちの電話
- 11～16日 第33回 地方自治体女性管理監督者研修会
- 15～17日 (社) 大学婦人協会 全国セミナー
- 17～23日 婦人国際平和自由連盟 (WILPF) 国際会議
- 23～24日 武蔵嵐山志師塾
- 27日 比企地区PTA役員研修会(埼玉県)
- 28～29日 韓国女性開発院

11月

- 4～8日 第22回 日本スリーデーマーチ
- 9～10日 埼玉県保育士会
- 11～12日 第5回全国ボランティア活動推進協議会(文部省)
- 13～14日 (社) 全埼玉私立幼稚園連合会
- 16日 上田市女性いきいき講座
- 18～20日 国際婦人教育振興会
- 21日 嵐山音楽祭(嵐山町)
- 27～28日 全国婦人教育懇話会

12月

- 4～5日 埼玉県保育問題協議会
- 4～5日 埼玉県障害児通園施設協議会宿泊学習会

展示コーナー

「男女共同参画社会の実現へー女性2000年会議にむけて」

女性と男性が社会のあらゆる分野において共同参画することは、人権の確立という点からも優先されるべき課題である。女性2000年会議に向けて、女性はどうに力をつけてきたのか、男女共同参画社会の実現に向けての現状及び愚弟的な事例を探索資料を一階エントランスホールに展示中ですので是非ご覧ください。

* 展示資料例

「男女共同参画白書」「わかりやすい男女共同参画と女性のエンパワーメント」「女性のエンパワーメントのための学習」「両性の平等と自立」ほか



編集後記

2月22日(火)から、文部省からの委嘱により、「全国ボランティア情報提供・相談窓口事業」を開始しております。ボランティア活動を始めたい方、すでに活動をされている方に活動の場の情報を提供する事業です。広くご利用いただき、少しでもお役に立てればと思います。

前号で実施いたしました読者アンケートには、多くのご意見、ご感想をいただきましてありがとうございます。次号に、集計結果を掲載いたします。

現在、12年度の事業計画を策定しておりますが、平成12年度においては、『男女共同参画社会の形成をめざした「学び」と活動』を総合テーマとして事業の推進に努めることといたしておりますのでどうぞよろしくお願いたします。

ヌエックニュース第88号

平成12年2月25日発行

編集発行 国立婦人教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

☎ 0493-62-6711(代表)

FAX: 62-6722(庶務課) 62-6720(事業課) 62-6721(情報交流課)

ホームページURL <http://www.nwec.go.jp/>

E-mail webmaster@nwec.go.jp